

本時のねらい

ピーターラビットの物語の場面や登場人物の気持ちが伝わるように、工夫して朗読できるようにする。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

タブレットとイヤホン(マイク付き)を使って、自分が朗読する音声を動画に撮り、正しい発音やイントネーションで音読する力の向上につなげる。
1人1台端末を用いることで自分の音声を聞きながら、工夫・改善し、何度も練習したうえで朗読に取り組むことが可能になる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・タブレット PC ・学習支援ソフト (ロイロノート) ・New Crown のデジタル音声
・イヤホンマイク

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	・教科書(NEW CROWN)の本文について教員の範読やQRコードの音声を聞く。	・教科書内のQRコードを読み取り、工夫された朗読の音声を聞かせる。時間を設定し、時間内であれば何度も聞くことができるようにする。
展開 (30分)	・教員の発音に続いて、朗読の練習をする。 ・文章の日本語訳を読み、内容を把握する。 ・文章に、工夫できる箇所(抑揚・スピード・感情を込めることなど)を自分で考えて書き込む。 ・ロイロノートで、自分の朗読を録音する。 (発音が分からない箇所は、デジタル音声で確認しながら練習するように事前に指示をする) ・録音した音声を提出する。	・ロイロノートの動画機能を使い、動画を撮影する。 ・撮影後、自分の音声を確認しながら改善点を見つけ何度も撮影しなおすことができるので、積極的に取り組むことができる。 ・発音しにくい単語や表現は、読み取ったQRコードから各自確認し、何度も聞いたうえで練習するよう指示する。 ・撮影した動画を提出する。 (ロイロノートの提出箱を使用する)
まとめ (10分)	・生徒が工夫する箇所を書き込んだプリントを回収し、良かった工夫を教員が読み上げ紹介することで共有する。 ・振り返りの記入をする。	・本時で学んだこと、分かったこと、工夫したことについて記入し、次時につなげる。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1 : 発音分からない箇所をデジタル音声で確認している場面



写真2 : 自分の音声を確認しながら、朗読練習を行っている場面



写真3 : 上手くできたものを提出している場面

児童生徒の反応や変容

・デジタル音声で何度も発音を確認できるので、生徒は自分のペースに合わせて練習できていた。
・自分の英語の音声を確認しながら練習できるので、改善点やさらに工夫したいところを考えながら取り組んでいた。
・単に英文を読むのではなく、物語の場面や登場人物の気持ちを理解したうえで工夫して英文を読む力が身についた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・自分のペースで何度も練習できるので、生徒の音読活動には効果的に活用できる。
・イヤホンマイクを使用することで、生徒自身の英語がクリアに録音できるので、聞き直して改善することの手助けになる。